

◆ 感染症対策局（感染症対策課）

< 感染症対策課 >

感染－ 1 麻しん・風しんの定期予防接種を受けましょう

感染－ 2 風しん抗体検査費用を補助します

感染－ 3 風しんの追加的対策について

感染－ 4 エキノコックス症を予防しましょう

感染－ 5 ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒に気をつけましょう

感染－ 6 結核予防について

感染－ 7 あなたとあなたの大切な人のために ～ LET'S エイズ検査 ～

感染－ 8 肝炎ウイルス検査を受けましょう

感染－ 9 ダニ媒介感染症に気をつけましょう

感染－1 麻しん・風しんの定期予防接種を受けましょう

麻しん（はしか）や風しんは感染力が強く、空気感染もするので、手洗い、マスクのみで予防はできないことから、ワクチン接種が有効です。

現在、以下の児童・成人男性を対象に定期予防接種が行われています。

実施方法や予防接種の詳細は、お住まいの各市町村の予防接種担当窓口にお問い合わせください。

《定期接種（無料）》

○児童が小学校へ入学するまでに2回の接種を受けます。

- ・1回目は、1歳～2歳になるまでの間
- ・2回目は、小学校に入学前の1年間（6歳になる年度）

※1回目から2回目まで期間が開きますので、2回目を忘れず受けるようにしましょう。

○昭和37年4月2日から昭和54年4月1日の間に生まれた男性（風しんに係る抗体検査を受けた結果、十分な量の風しんの抗体があることが判明し、当該予防接種を行う必要がないと認められる者を除く）に対し、1回の接種

なお、定期予防接種の対象となっている方だけでなく、麻しん（はしか）、風しんの罹患歴や予防接種歴が明らかでない方、予防接種を一度しか受けていない方は、かかりつけの医師にご相談の上、予防接種を検討してください。

《麻しん》

- ・麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。
- ・麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。
- ・感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れ、2～3日熱が続いた後39℃以上の高熱と発疹が出現します。

《風しん》

- ・風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症で、風しんへの免疫がない集団において、1人の風しん患者から5～7人にうつす強い感染力を有します。
- ・風しんウイルスの感染経路は、咳やくしゃみ等からの飛沫感染です。
- ・症状は不顕性感染（感染症状を示さない）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発疹が長く続いたり、関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。
- ・また、風しんに対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高くなります。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719

感染－2 風しん抗体検査費用を補助します

風しんの免疫を保有していない女性が妊娠中に風しんに感染すると、胎児が、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする「先天性風しん症候群」になる可能性があります。

道では、「先天性風しん症候群」の発生を防止するための対策として、風しん抗体検査に対して費用の補助を行っています。

詳しくは、お住まいの市町村を管轄する保健所にお問い合わせください。

《補助の対象になる方》

北海道にお住まいの方でいずれかの項目に該当する方

（札幌市、小樽市、函館市、旭川市が住所地の方は、各市の予防接種担当窓口にお問い合わせください。）

- 妊娠を希望する出産経験のない女性
- 妊娠を希望し出産経験がなく、かつ風しん抗体ができない女性の配偶者（婚姻関係と同様の事情にある方も含みます）並びに同居者
- 風しんの抗体価が低い妊婦の配偶者・同居者

※ただし、過去に風しん抗体検査を受けたことがある、過去に2回の風しんの予防接種を受けている、検査により風しんと診断されたことがある方は除きます。
また、夫婦同時に受検することはできません。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係
電話 011-204-5253
FAX 011-232-3719

感染-3 風しんの追加的対策について

昭和37年度～昭和53年度生まれの男性の皆さまへ

風しんは今も流行しています。

この年代の男性の皆さまには、過去に公的に予防接種が行われていないため、自分が風しんにかかり、家族や周囲の人たちに広げてしまうおそれがあります。

風しんは、成人がかかると症状が重くなることがあります。

また、妊娠初期の妊婦さんに感染させてしまうと、生まれてくる赤ちゃん目や耳、心臓に障害が起きることがあります。

あなたと、これから生まれてくる世代の子どもを守るために風しんの抗体検査と予防接種を受けましょう。

【風しん抗体検査と予防接種の流れ】

①市町村からクーポン券が届く（40歳～47歳の方）

↓

②風しんの抗体検査を受ける。

検査は、検査は健康診断かお近くの医療機関で、採血して行います。結果がわかるまでに数日かかる場合があります。

↓

③検査の結果を聞き、免疫がない場合は風しんの予防接種を受ける

【問い合わせ先】

自治体により事業の開始や対応が異なるため、お住まいの市町村にお問い合わせください。

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係
電話 011-204-5253
FAX 011-232-3719

感染-4 エキノコックス症を予防しましょう

私たちの住んでいる北海道には、エキノコックス症という、道外ではあまり見られない病気があります。

この病気は、エキノコックスという名前の寄生虫が主に肝臓に寄生しておこる病気で、道内では毎年20名前後の患者が見つかっています。

【エキノコックスの寄生サイクル】

エキノコックスは、自然界においては、主にキツネと野ネズミに寄生しています。

(1) 成虫は、キツネの腸に寄生して卵をうみ、その卵が糞と一緒に排泄され、野ネズミが木の芽等と一緒にこの卵を食べると、野ネズミの体の中で卵がかえって幼虫となり、肝臓に寄生します。

(2) この幼虫が寄生している野ネズミをキツネが食べると、キツネの腸の中で幼虫が成虫になります。

このように、エキノコックスは、通常、キツネと野ネズミの間の「食べる」と「食べられる」という関係の中で生きています。

また、犬もキツネと同様に、エキノコックスに感染した野ネズミを食べることにより、エキノコックスの成虫が寄生しますので、犬を飼っている方は、その飼い方に注意が必要です。

私たち人間は、エキノコックスの卵に汚染された山菜や沢水などを直接口にしたり、卵が付着した手指を介して感染して、野ネズミと同様にエキノコックスの幼虫が肝臓に寄生します。

人から人に感染したり、野ネズミから人に感染することはありません。

エキノコックスの卵は、直径0.03mmの球体で肉眼では見えませんが、十分な加熱や水洗い（手洗い）で、感染を予防することができます。

人にエキノコックスが感染しても、すぐには自覚症状が現れず、数年から10数年の潜伏期を経て、上腹部の不快感や膨満感が現れ、しだいに肝機能障害に伴うだるさや黄疸等の症状が現れ、放っておくと肺や脳に病巣が転移したり、命にかかわることもあります。

エキノコックス症は、予防できる病気であり、早期発見、早期治療が大切です。

北海道での生活が5年以上で検診を一度も受けたことがない方や5年以上検診を受けていない方、特に、キツネに触れたことのある方や野ネズミを補食したことがある犬の飼い主など感染のおそれがある方は、各市町村が実施する健康診断（血液検査）を積極的に受診しましょう。

また、この健康診断で感染の疑いがあった人は、道が委託している医療機関で精密検査を受けることができますので、詳しいことは、市町村又は最寄りの保健所に御相談ください。

エキノコックス症を予防するために、正しい知識を身につけましょう。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719

感染-5 ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒に気をつけましょう

～ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒が増加しています！次のことに気を付けましょう～

1 「ノロウイルス」とはどのようなウイルス？

- (1) ノロウイルスは、ウイルスの中でも小さく、球形をしたウイルスです。
- (2) 日本だけでなく、世界中に広く分布しているとされ、アメリカ、イギリス、ニュージーランド、オーストラリア、フランス、スペイン、オランダ、アイルランド、スイスなどでヒトへの感染が報告されています。

2 どのような症状なの？

- (1) 潜伏期間（感染から発症までの時間）は通常24～48時間です。
- (2) 主な症状は吐き気、おう吐、下痢、腹痛であり、発熱は軽度です。これらの症状が1～2日続いた後、治癒し、後遺症もありません。
- (3) また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。
- (4) この病気にかかっているかどうかは、臨床症状だけでは特定できないため、患者のふん便や吐ぶつについて、必要に応じてウイルスの遺伝子検査等を行い、診断することもあります。

3 どのように感染するの？

ノロウイルスの感染力は強く、感染経路は、ほとんどが経口感染で、次のように感染すると考えられています。

- (1) 患者のノロウイルスが大量に含まれるふん便や吐ぶつから人の手などを介して二次感染する場合
- (2) 家庭や共同生活施設など人同士の接触が多いところで、人から人へ飛沫感染等直接感染する場合
- (3) 調理に従事した人が感染しており、その人の手指等を介して汚染された食品を食べた場合
- (4) 汚染された貝類を生あるいは十分に加熱しないで食べた場合

なお、このウイルスは症状がなくなっても、1週間程度から長い時には1ヶ月程度、ふん便の中にウイルスを排泄し続けることがありますので、注意が必要です。

4 どんな時期に多いの？

このウイルスによる感染事例は一年を通して見られますが、11月頃から発生件数が増加しはじめ、12月～翌年1月が発生のピークとなる傾向にあります。

5 どんな場所で発生が多いの？

平成25年から平成29年末までの過去5年間に発生した直接感染及び二次感染（食中毒を除く）事例（有症者10名以上）では、幼稚園・保育所36%、高齢者関係施設24%、学校12%、医療機関9%、社会福祉施設5%となっており、寝食や生活をともにする人々の間での感染が目立っています。

同じ時期に発生した食品を介して感染した事例（食中毒）では、原因施設が飲食店89%、給食提供施設2%、その他9%となっています。

6 予防方法は？

(1) 手洗い

ア 調理に従事する人や共同生活を行う施設などで働く人は、常に爪を短く切って、指輪や時計等をはずし、石けんを十分に泡立て、ブラシなどを使用して手指を洗浄します。

イ すすぎは温水による流水で十分に行い、清潔なタオル又はペーパータオルで拭きます。

ウ 石けん自体はノロウイルスの感染力を失わせることはできませんが、手の脂肪等の汚れを落とすことにより、手指からウイルスをはがれやすくします。

(2) 消毒

消毒用エタノールの中には、ノロウイルスの感染力を失わせる効果を期待できるものもありますが、次亜塩素酸ナトリウムや加熱（85℃で1分以上）による消毒が最も効果的です。

※ 次亜塩素酸ナトリウムの消毒液は、家庭用の塩素系漂白剤を次のとおり希釈して作ることができます。

| 用 途 | 家庭用の塩素系漂白剤の希釈度合 | 次亜塩素酸ナトリウムの濃度 |
|--------------------------------------|-----------------|---------------|
| 十分に洗浄した調理器具等の消毒、ふん便や吐ぶつを拭き取った後の床等の消毒 | 250 倍 | 0.02 % |
| ふん便や吐ぶつの拭き取りに使用したペーパータオル等の処理 | 50 倍 | 0.1 % |

(3) ふん便や吐ぶつの処理

ア 感染を広げないためには、ふん便や吐ぶつの適切な処理が非常に重要です。

イ 使い捨てのガウン（エプロン）、マスクと手袋を着用し汚物中のウイルスが飛び散らないように、ふん便や吐ぶつをペーパータオルで静かに拭き取ります。

ウ 拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム（0.02%）でさらに浸すように拭き、その後水拭きをします。

エ おむつ等は、速やかに閉じてふん便等を包み込みます。

オ 拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。（この際、ビニール袋に廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム（0.1%）を入れることが望ましい。）

カ また、ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、これが口に入って感染することがあるので、消毒後は換気を十分に行い、ふん便や吐ぶつ、拭き取りに使用したペーパータオル等は放置、乾燥させないことが重要です。

キ 消毒の方法について不明な点がございましたら、最寄りの保健所にご相談ください。

(4) 食品の取扱い

ア 食品、調理器具などを清潔に保ち、調理器具については使用のたびによく洗浄し、消毒、乾燥させましょう。

イ ノロウイルスは加熱により感染力を失います。ノロウイルスの汚染のおそれのある二枚貝などの食品の場合は、中心部の温度が85～90℃で90秒以上の加熱が望まれます。

ウ 調理従事者について、健康状態に常に気を配り、お腹の具合が悪いときなどは、直接食品に触れる作業に従事しないようにしましょう。

7 感染したかもしれないと思ったら？

最寄りの保健所やかかりつけの医師にご相談ください。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

健康安全局食品衛生課食品保健係

電 話 011-204-5253 / 204-5261

FAX 011-232-3719 / 232-1037

感染－6 結核予防について

結核は克服された過去の病気と思われがちですが、令和元年は、北海道で389人、全国では14,460人もの方が新たに結核を発症しています。

結核は、人から人へうつる病気ですが、早期に発見して治療すれば人にうつす可能性も少なくなり、治療も短期間で済みます。

職場・学校などの定期健康診断を必ず受けましょう。

また、せきや発熱が2週間以上続くなどの症状がみられたら、早めに医療機関で受診しましょう。

毎年8月1日～12月31日に、（公財）結核予防会による複十字シール運動が実施されています。

この運動は、結核や肺がん、その他胸部に関する疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、日本のみならず世界の結核対策のために、結核がまん延している途上国への援助も目的としています。

皆様のご協力をお願いします。

【問い合わせ】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719

感染－7 あなたとあなたの大切な人のために ～ LET'S エイズ検査 ～

HIVはヒト免疫不全ウイルスというウイルスのことで、感染するとエイズ＝後天性免疫不全症候群を引き起こす原因となります。

日本では毎年、1日に約3人から4人が新たにHIVに感染し、年々増加の一途をたどっています。

現在では、医療の進歩により生存率が高まっていますが、重症化を防ぐためにはHIV検査（エイズ検査）による早期発見・早期治療の開始が非常に大切です。検査は最寄りの保健所で匿名で受けることができます。

安心して生活を送るためにも是非エイズ検査を受けましょう。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719

感染－8 肝炎ウイルス検査を受けましょう

ウイルス性肝炎は、B型・C型などの肝炎ウイルスの感染によって起こる肝臓の病気で、主に血液を介して感染します。

多くの場合は自覚症状がないままに病気が進行し、放っておくと慢性肝炎から肝硬変、肝臓がんなど重篤な状態に陥ることがあります。

こうした状況をふせぐためには早期発見・早期治療に向けた肝炎ウイルス検査を受けることが大切です。道立保健所では、「B型肝炎ウイルス」及び「C型肝炎ウイルス」の検査を実施しています。少量の採血により、同時に2つの検査が可能です。

安心して生活をおくるためにも是非肝炎ウイルス検査を受けましょう。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719

感染－9 ダニ媒介感染症に気をつけましょう

マダニはライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの病気の原因となる病原体を保有していることがあり、咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

【マダニとは】

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニで、食品等に発生する「コナダニ」や、絨毯や寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など家庭内に生息するダニとは全く種類が異なります。

北海道でヒトから吸血するのは、主にヤマトマダニとシュルツェマダニの2種類で、道内に広く分布しますが、ヤマトマダニは利尻・礼文・天売・焼尻島と高山などの寒冷地には分布せず、シュルツェマダニは北海道南部の低地（主に渡島・檜山地方）ではきわめて希です。

草原や林内などに広く生息していますが、林道とけもの道の交点付近などは生息密度が高く、屋内、住宅街や公園内、畑地や牧草地などヒトの管理の行き届いた場所には、ほとんど生息していません。

吸血を始めると口器からセメント質を分泌し、1日もすると口器の周りをしっかりと固めるので、ダニの体を引っ張っても取れなくなります。吸血期間は一週間から10日間に及びます。吸血が終わると、セメント質などを溶かして自分から脱落します。

【予防方法】

マダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに咬まれる危険性が高まります。

草むらや藪・森林などマダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する。）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大事です。

服は、マダニを目視で確認しやすい明るい色のものやマダニがつきにくい化学繊維素材のものがお薦めです。

草むらや藪・森林などの場所で、長時間地面に直接寝転んだり、座ったり、服を置いたりするのは止めましょう。首に掛けるタオルや脱いだ上着などは直接地面に置いたり木にかけたりせず、出来るだけバッグの中などにしまうようにしましょう。

DEET（ディート）という成分を含む虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われてはいますが、マダニを完全に防ぐわけではありません。虫除け剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取る必要があります。

屋外活動後は、すぐに入浴し、体や頭をよく洗い、新しい服に着替えましょう。

脱いだ衣服はすぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

マダニに咬まれていないか確認してください。マダニは比較的やわらかい部位の皮膚に咬みつきます。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などがポイントです。咬まれた直後は痛みやかゆみなどの自覚症状がなく、気づかないことも多いと言われます。

犬や猫などの動物にダニが付くことがあります。除去には、目の細かいクシをかけると効果的です。ダニ駆除薬もありますので獣医師に相談してください。

【マダニに咬まれたら】

マダニ類は体部をつまんで引っ張ると口器がちぎれて皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりする恐れがありますので、医療機関でマダニの除去、洗浄などの処置をしてもらってください。

マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱、食欲低下、おう吐、下痢等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。受診の際は、いつ、どこを咬まれたか、山などに行ったかを医師に伝えてください。

【問い合わせ先】

保健福祉部感染症対策局感染症対策課感染症対策係

電話 011-204-5253

FAX 011-232-3719